

## 外部評価における意見への対応

部局等 大学院福井大学・奈良女子大学・  
岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科

外部評価委員等からの意見等 (令和4年1月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等
<p>項目番号：2-1 委員長総括</p> <p>今後いっそう、高度な専門職性を備える教師の育成に向けて必要な手立てを講じ、教職の重要性と魅力の発信を続けられることを期待する。</p>	<p>本研究科の「学校拠点方式」を基軸とした教員養成・教師教育改革の理念・目標、そして国内外への改革の展開と支援について、新学習指導要領の理念・目標とその実現事例として高く評価いただいた。本研究科の取り組みを、ラウンドテーブル等の総合的な教師教育の装置を媒介として今後、産官学医金連携を含めたマルチステークホルダーで協働して展開・発展・普及していくことで、より一層「高度な専門職性を備える教師の育成」を実現していく。</p>
<p>項目番号：1. 学部等の理念・目標</p> <p>「学校拠点方式」を有効に機能させ、地域の教育実践の発展をこれからも支えていただきた。いっそうの広報に努められたい。できるだけ多くの教員に周知されるよう取り組んでほしい。</p>	<p>本研究科の「学校拠点方式」を基軸とした教員養成・教師教育改革の理念・目標について高く評価いただいた。今後も地域の多様なステークホルダーとの協働連携にもとづいて本研究科の理念・目標を追究していくとともに、産学官連携の推進により地域・全国・世界の教師教育コミュニティ及び学术界への実践・研究の広報を強化していく。</p>
<p>項目番号：2. 組織及び人事構成</p> <p>実務家教員の適切な採用、若手教員の確保、女性教員比率、昇任について留意されたい。会議の数が多い状況も窺えるので、効率的な運営に配慮することが望まれる。</p>	<p>本研究科の組織及び人事構成として、実務家教員と研究者教員のバランス、若手教員や女性教員を含む多様性とそれに基づく協働体制をさらに発展させる。さらに各種委員会業務の精選を行い、一部の教員に過剰な負担が課されないよう、一層の調整を行う。</p>
<p>項目番号：3. 予算</p> <p>外部資金の獲得状況について、いっそうの努力を重ねられたい。</p>	<p>研究科として、学内予算の有効使用を計画的に実施遂行するとともに、教員の学校並びに地域との協働実践研究を推進支援する大型の科研費をはじめとした外部資金獲得を組織として積極的に進めていく。</p>
<p>項目番号：4. 施設・設備</p> <p>院生や教員の声を受けとめ、いっそうの充実に努められたい。</p>	<p>院生・教員の協働的な学習パートナーシップにもとづき、コラボレーションホールをはじめとした教育・学習・研究の場を整備充実させていくとともに、オンライン及びブレンディッド・ラーニングを推進する設備やデジタルツールの整備を一層進めていく。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和4年1月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等
<p>項目番号：5. 教育</p> <p>「学校拠点方式」により長期インターンシップに取り組む若手院生が積極的に学校現場にて研究できるようにしていくことが必要である。</p> <p>コロナ拡大の今後を見通すことは困難だが、及ぶ限りの創意工夫で効果を持続させてほしい。</p>	<p>「学校拠点方式」を基軸とした教育課程の編成及びその実装について高く評価いただいた。今後は、産学官連携体制をより一層強化しながら学部卒院生及び現職教員院生の学びと研鑽を支えていく。また、昨今の COVID-19 感染状況への対応に鑑みて、オンラインによる学修デザインのさらなる充実と対面式とのブレンディッド・ラーニングについて検討を進めていく。また、本研究科の教育と研究の評価については、マルチステークホルダーによる共通指標を統合する試みを展開し、本研究科の教育成果の周知循環、教育の質保障を不断に推進していく。</p>
<p>項目番号：6. 研究</p> <p>教師教育にあたる教員が、安心して研究・実践の職務に当たることのできる環境整備に、着実に取り組んでほしい。研究活動の内容を広く普及する方法についても検討してほしい。</p>	<p>教員の研究時間の確保は組織の重要課題とし、教育活動を分節して各部をチームで担当するターンオーバー制といった新たな就業方式を試みる。また、連合3大学が一層連携して研究活動・成果を集約し、それらはこれまでのホームページやニューズレターでの紹介にとどまらず、メディア及び行政と連携して広く地域・国民に周知していく。</p>
<p>項目番号：7. 社会連携・貢献</p> <p>成果の普及についても図っていただきたい。研修などを通して県教委との連携の在り方について改善を図ることも必要である。</p>	<p>国内における教員研修の変革期をふまえ、福井県をはじめとした各連携地域の教育委員会と今後さらに連携して、「学校拠点方式」の経験と知見を活かした地域教員研修のより一層の充実を図っていく。また、社会連携としてのこれまでの学官連携体制を産官学医金連携へと拡張させ、マルチステークホルダーによる地域の教師力向上から教育力向上までを支える先進機構として連合教職開発研究科を発展させていく。</p>
<p>項目番号：8. グローバル化</p> <p>コロナ禍の影響で厳しい状況にあるが、さらなる充実・発展について模索・検討する好機として捉え、今後に備えていただきたい。</p>	<p>国際的な教師教育改革の拠点として、海外機関との国際共同研究を基盤として、留学生の受け入れと派遣、教育の国際化をより一層進めていく。また、本研究科の学校拠点長期実践研究プロジェクトと長期実践研究報告の評価スケールを援用し、海外研修生や留学生の学習の質向上を図っていく。さらに、教員及び院生による国際共同研究の推進を奨励し、その成果を国際学術研究フィールドで報告していく。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和4年1月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等
<p>項目番号：9. 附属施設の活動</p> <p>大学院と協働で開発した附属学園における教員養成や教員研修プログラム等をどのように発信・普及していくかが重要である。</p>	<p>附属学園と研究科でこれまで進めてきた強固な協働研究体制を基盤として、特別支援教育をはじめとした今日的な教育課題解決に向けた協働実践研究をより一層推進する。また、附属学園と協働して地域の公立学校や他地域・他国の教育機関への実践研究成果の共有を進め、地域及び国内外への知の共有と循環を図っていく。</p>